

平成 26 年 12 月 18 日

南 の 風 9 4

南部ミニバスケットボール連盟
会 長 藤原 敬一

たいへん心配です。国際試合出場停止の件です。

F I B A（国際バスケットボール連盟）は J B A（日本バスケットボール協会）に対して、F I B A 傘下の競技団体としての無期限資格停止を下しました。そして、問題解決のために F I B A が第三者委員会を設立し、ここに協会の全権を委譲することなどが盛り込まれています。冒頭に書きました、国際試合出場停止という処分は衝撃的でした。特に女子日本代表は、昨年のアジア選手権で優勝しており、来年の 8 月に予定されている、2016 年リオ五輪のアジア予選通過が有望でしたが、最悪の場合、その出場さえできなくなるわけです。なぜこのような事態になったのでしょうか。

ずばり一番の原因は、「プロ・アマ問題」と言えます。日本には現在、企業アマチュアチームとプロチームが混在する N B L と、完全プロ化された t k b j リーグの二つのトップリーグがあります。このことを F I B A は問題視しているのです。「1 つに統合しなさい。」ということです。

制裁に至ったのは、F I B A が 6 年も前から要請してきたのに、J B A が一向に改善しようとしなかったためです。今年の 5 月「今年の 10 月末までに、事態の進展がみられなければ制裁を科す」と最後通告したにも拘わらず、統合の具体案を示すことができなかったからです。

N B L と b j 両リーグの話し合いが合意に至らなかったのは、方向性の違いであると思います。完全プロ化を目指す b j 側は、チーム名から企業名をはずしてほしいと要望しています。世界的なプロ化の流れからすると b j 側の考えもわかります。一方 N B L 側は、日本におけるこれまでのバスケットボール発展の経緯について言いたいのです。「バスケットボール競技に拘わらず、日本のスポーツ界を支えてきたのは、学校の部活であり企業が運営するアマチュアチーム」と主張しています。企業サイドにも発展に大きく寄与した自負があるのです。このように学校の部活があり、その頂点に企業アマチュアチームがあるという競技強化のピラミッドが形成されているのは、世界でも稀なケースです。こうした企業のこれまでの役割は評価しなければなりません。

しかしバブルが弾けて以来、企業がチームの運営から撤退するケースが増えました。また、企業チームに所属していた選手の受け皿の問題もでました。そんな中、1993 年サッカーの J リーグが発足し、バスケットボール界もプロ化を模索し始めるのです。

プロ化の経緯について細かくは触れませんが、市場規模、観客の確保などの問題がありました。

b j リーグが発足したのは、2005 年です。企業側から活動休止を告げられ、バスケットボールの活動を続けるにはプロのクラブをつくるしかないと考えたのです。選手を公募してプロリーグをスタートさせたのです。そして、難しい運営をなんとか軌道に乗せたのです。

両者の言い分の概略を書きました。（十分ではありませんが。）国際試合出場禁止という、重大な制裁を受けた以上、速やかに解決の道を見つけ実行してほしいと願います。

すべての選手やファンの夢、バスケットボールに携わる関係者の思いを十二分に考えていただき、繰り返しますが、一日でも早い解決を望んでやみません。